

「郷土芸能 黒丸踊」の

国指定の可能性 進捗状況は！

前川議員

(1) 黒丸踊の国指定についての進捗状況

この踊りは、文明13年大村藩主第16代大村純伊が旧領地を取り返した時の喜びの宴に出演して以来530年余り黒丸町に伝わる郷土芸能で、昭和48年「文化庁選択無形民俗文化財」に指定されて35、36年が経過する。国指定に向け、市や県の関係者は努力されているが、進捗状況はどうなっているか。

市長

(1) 昨年度文化庁調査官から、芸能の価値と歴史の再整理を行う必要があると指導を受けた。このため、文化庁、県学芸文化課及び芸能の専門家と指定に向け取り組む体制について協議を重ね、民俗芸能や歴史の専門家そして黒丸踊保存会で構成する黒丸踊調査指導委員会を組織して、8月24日に第1回の委員会を開催したところである。この委員会の中では、芸能歴史、民俗、それぞれの

(2) 富の原2丁目の市道15号線の改良計画は現在どう進められているのか。この地区は戦後軍用地を払下げ、農地として食糧増産へと汗を流した畑地であったが、用途地区、優良住宅地として現在1,208世帯、3,149人へと発展している。富の原地区振興協議会並びに隣接町内会関係者1,029人の署名陳情等で譲渡、取得された道路、幅員6m、長さ980mの改良計画は現在どうなっているか。

分野にわたる学術調査を行い、裏づけのある報告書が必要であると指導を受けたところである。国指定に向けて、新たな課題が明らかになってきたので、今後も調査指導委員会及び文化庁調査官の指導を受けながら、国指定に向けて全力を尽くしていきたい。

市長

(2) 市道富の原2丁目15号線は、本年4月に財務省より市道用地として、全面積の3分の2に当たる約1,500mを無償

で譲り受け、残りの3分の1に当たる約800mを有償により取得したものである。財務省からの優遇措置による道路用地としての譲与処分条件として、早急な道路供用を

実施する必要があることから、この9月議会において補正予算を計上し、市道富の原2丁目15号線延長380m及び市道富の原2丁目10号線延長600mの工事を実施して、本年度中の全線延長980mの供用を計画しているところである。

- ・（その他の質問事項）
- ・新幹線を活かしたまちづくりの基本計画
- ・長期展望に立つての水資源確保の考え
- ・今後の競艇事業の具体的考え



黒丸踊

確固たる決意を持って行政改革及び意識改革を実行していきましょ

う

園田議員

(1) 徹底的な民間活力導入の提案

今後示されるであろう第5次行政改革の策定にあたり「提案型公共サービス民営化制度」導入を提案する。これは、民営化したほうがうまくいく事業を民間から提案してもらおうというもので、行政のほうが明らかにうまくいくと思えるものも除外せず、全事業を民営化の対象にする。例外を一切設けないことで、行政でなければできないと思っている事業でも、提案される可能性がある。出された提案は、第三者も交えて中身を検討し、

市長

(1) 民間からの提案型というのは、非常に關心持っている。行政でやっているものを民間のほうでこういことができないのではないかとこの提案はぜひ検討に値すると思う。早速庁内で協議し、取り組む方向で行きたいと思っている。

市長 (2) 極めて大事な課題

(2) 幼稚園整備計画の白紙撤回を求める

民営化、指定管理者へと移行していくものである。行革推進に加えて、市民のニーズを吸い上げた骨太の方針を策定すべきであり、保育に欠ける子、保育に欠けない子を含め、大村市全体の保育ニーズを再調査し、定数配置の見直しを図る必要がある。市立保育所、私立保育園、市立幼稚園、私立幼稚園、無認可保育園、市内の学童施設（私立、父母の会等）、特別保育、ステップも同じテーブルにつき、総合的な検討を経た、新たな整備計画の策定を求める。

である。26年度まで幼稚園整備計画に基づき進めていく予定であったが、ここ最近、状況が変わってきているのではないかと感じている。ここで一度原点に戻り、全体的に見て、どうすれば就学前の子どもたちにとって本当にいい幼稚園の教育ができるのか、もう一回再

スタートすべきではないかという思いがある。ぜひこれは教育委員会、子ども政策課が一体となって協議していきたい。

(その他の質問事項) 職員のモチベーションアップのための人事評価のあり方を提案 投票率アップのための様々なアイデアを提案 市立大村市民病院の経営状況について



見直しが求められる幼稚園整備計画



ニーズが変化してきている幼稚園教育